

江田島市 人口ビジョン・総合戦略

概要版



平成27年10月

令和 2年 3月

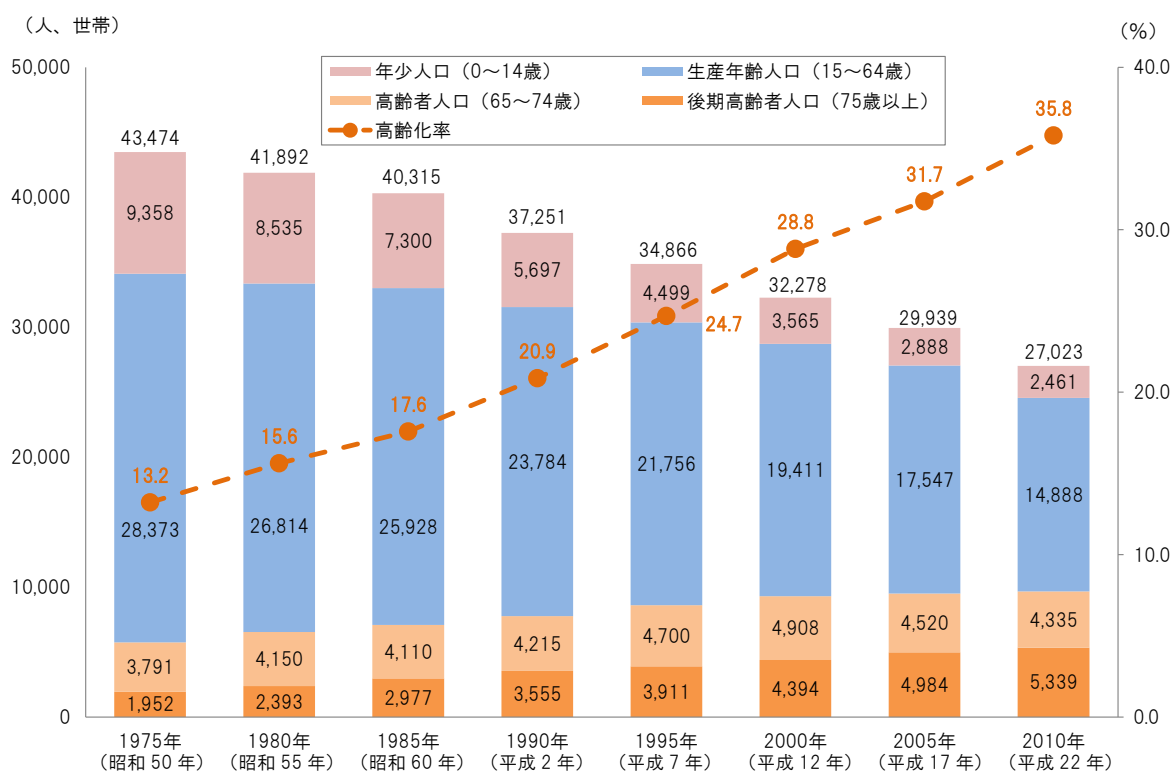
1. 江田島市の人口の現状

江田島市の総人口は、戦後、国勢調査が最初に実施された昭和22年(1947年)の63,560人(旧4町の合計)をピークとして、一貫して減少し、平成22年(2010年)は27,023人と、この間に36,537人(57.5%)減少しています。

総人口は、昭和50年(1975年)に43,474人、平成22年(2010年)には27,023人と、35年間で16,451人(△37.8%)減少しています。この間に、年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)では、年少人口が6,897人(△73.7%)、生産年齢人口が13,485人(△47.5%)減少していますが、高齢者人口(65歳~)は3,931人(68.4%)増加しています。

このため、65歳以上の高齢者の総人口に占める割合である高齢化率は、この間に、13.2%から35.8%まで増加しています。

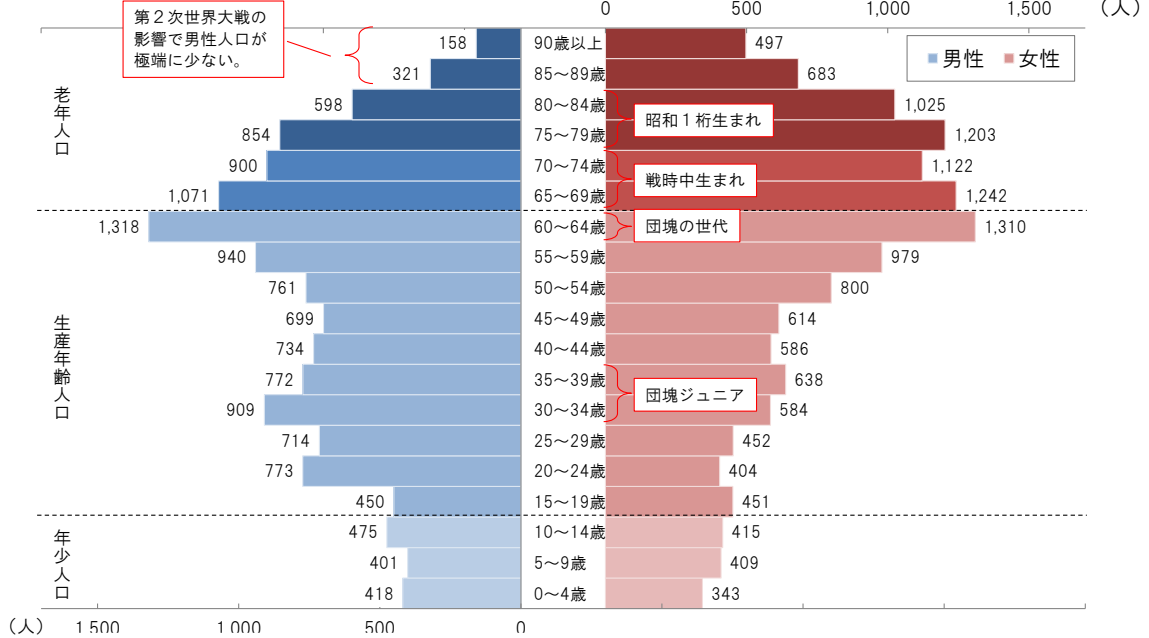
図1 年齢3区分人口の推移



出典：国勢調査

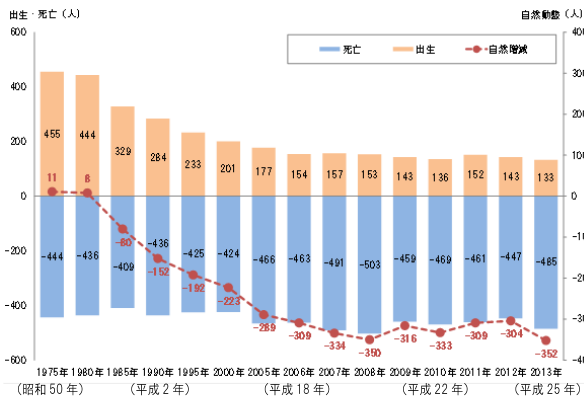
平成 22 年（2010 年）の総人口を年齢別にみると、昭和 1 桁生まれと団塊の世代人口が多く、年齢が低下するに従い人口が減少しています。20～40 歳代では女性の方が男性より 2～3 割程度人口が少なくなっており、今後、出生数の更なる減少が見込まれています。

図 2 人口ピラミッド 平成 22(2010)年



出典：国勢調査 ※各総人口に占める割合

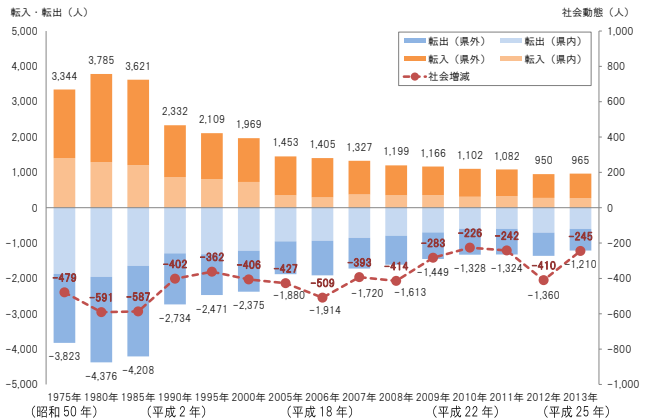
図 3 自然動態（出生・死亡）の推移



江田島市の自然増減（出生数と死亡数の差）については、昭和 55 年（1980 年）から平成 17 年（2005 年）で自然減少が増加し、平成 17 年（2005 年）以降は概ね年間 300 人超の減少で推移しています。

図 4 社会動態（転入・転出）の推移

江田島市の社会増減（転入数と転出数の差）については、昭和 50 年（1975 年）～平成 18 年（2006 年）は約 400 人～600 人程度の転出超過で推移していましたが、平成 19 年（2007 年）以降は転出、転入ともに減少していることから、社会減は減少傾向となっています。

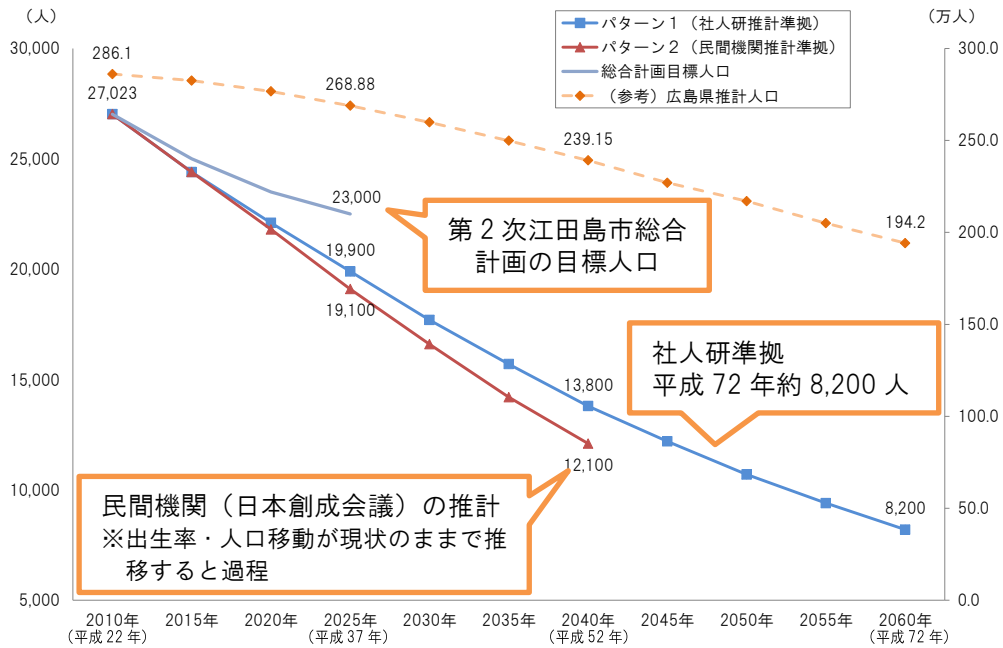


出典：広島県人口移動統計調査（乙調査）

2. 将来人口の推計

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）によると、平成72年（2060年）には、人口が現在の約3割となる約8,200人にまで減少することが推計されています。人口構成では、少子高齢化が今以上に進行し、約半数が65歳以上の高齢者となることが見込まれており、地域の活力維持に向けての対策が急がれています。

図5 将来人口の推計



※国勢調査の数値を基に、将来人口を推計。

●人口の減少が地域の将来に与える影響

表1 人口の変化

	2010年	2015年	2025年	2040年	2060年
	国勢調査	社人研推計値			
総人口	27,023人	24,400人	19,900人	13,800人	8,200人
	-	90.3%	73.6%	51.1%	30.3%
年少人口	2,461人	2,100人	1,600人	1,000人	600人
	-	85.3%	65.0%	40.6%	24.4%
生産年齢人口	14,888人	12,300人	9,500人	6,500人	3,600人
	-	82.6%	63.8%	43.7%	24.2%
高齢者人口	9,674人	10,000人	8,800人	6,300人	4,000人
	-	104.4%	91.0%	65.1%	41.4%
内、後期高齢者人口	5,339人	5,300人	5,700人	4,100人	2,800人
	-	99.3%	106.8%	76.8%	52.4%

【社会インフラ等への影響】

各種の税収は大きく減少しますが、公共施設（道路、河川、上下水道、公園など）は、一定の維持管理費が必要となります。

また、公共施設の利用が減少し、余剰施設（非効率施設）の増加が見込まれるとともに、生活交通なども含めた各種生活サービスの維持にかかる負担増が懸念されます。

【生活への影響】

将来的な人口の減少は、主に地域内での消費が主体になっている卸売小売や運輸郵便などの業種については、年間商品販売額が大きく減少し、事業所の数、従業員などの数にも大きく影響を及ぼすものと想定されます。

また、子どもの数の減少と高齢者人口の割合増加をもたらし、将来的な児童数の減少、現役世代の社会保障負担の増加が懸念されています。

3. 人口の将来展望

●基本姿勢

地域の暮らしを永続的に成り立たせるためには、そこに人々が住み続ける必要がありますが、江田島市においては、引き続き大きく人口が減少していくことが予想されており、将来的な地域の承継に懸念が生じる状況にあります。

将来推計にある人口減少傾向を改善し、地域の承継を図っていくためには、現状と課題を踏まえつつ、「現在を支える世代」の定住と、「次代を担う世代」の誕生を促す取り組みを進め、人口構造の世代間の均衡を図る必要があります。

こうした観点から、江田島市では、人口問題に対する方向性として、次の基本姿勢で臨みます。

基本姿勢1 現在を支える世代の定住を図る。

人口の定着を図るためには、市内でしごとをつくることが重要です。また、江田島市が、「しごと」を持つ世代や、その子どもたちだけではなく、更には定年退職後の世代にとっても、生活の場として、魅力を感じ、「住み続けたい」と思うまちであることも重要です。

人がある地域に「住み続けたい」と思う理由としては、教育、医療、交通など、安心して暮らし続けることができる生活環境が整っていることに加え、その人が、まちを好きで「愛着」を持っていることが大きな要因であると考えられます。

このため、本市では、定住者、他出者、縁故者、来訪経験者など、様々な形で江田島市に何らかの縁があり、「愛着」を持つ市内外の人が、市内で暮らし続けることができる「しごと」と「まち」をつくることにより、現在を支える世代の定住（定着や転入）を図っていきます。

基本姿勢2 次代を担う子どもを増やす。

現在の出生率の低迷は、ライフスタイルや就労形態の多様化など、我が国全体の社会的要因によるところが大きいと考えられるため、根本的な解決は難しいものの、若い世代における結婚や子どもの出生に関する理想を持つ方の「子育てをしながら安心して働くことができる」などの希望を叶えることは、次代の承継者の増加に繋がっていくものと考えます。

このため、結婚や出産、子育てなど、理想を叶える後押しをすることにより、次代を担う子どもを増やしていきます。

表2 移住したい理由

	男性	女性
10・20代	①出身地だから(42.9%) ②スローライフを実現したいから(26.8%) ③家族・知人など親しい人がいるから(26.8%)	①出身地だから(53.6%) ②家族・知人など親しい人がいるから(41.1%)
30代	①スローライフを実現したいから(47.9%) ②出身地だから(35.4%)	①出身地だから(51.1%) ②家族・知人など親しい人がいるから(36.2%) ③スローライフを実現したいから(36.2%)
40代	①スローライフを実現したいから(40.4%) ②出身地だから(36.8%)	①食べ物や水、空気が美味しいから(40.9%) ②気候が暮らしやすいから(34.1%)
50代	①スローライフを実現したいから(39.3%) ②出身地だから(34.4%)	①出身地だから(46.3%) ②家族・知人など親しい人がいるから(46.3%)
60代	①食べ物や水、空気が美味しいから(52.3%) ②スローライフを実現したいから(45.5%)	①スローライフを実現したいから(38.2%) ②食べ物や水、空気が美味しいから(35.3%)

※まち・ひと・しごと創生本部「東京在住者の今後の移住に関する意向調査」(平成26年(2014年))

表3 既婚者の平均理想子ども数と平均予定子ども数

未婚者の希望子ども数	夫婦の予定子ども数
2.12	2.07

※社人研「出生動向基本調査」(平成22年(2010年)調査回答分)

表4 国民の希望出生率

希望出生率
1.8

※日本創成会議・人口減少問題検討分科会「ストップ少子化・地方元気戦略」

$$\begin{aligned}
 \text{希望出生率} &= (\text{有配偶者割合} \times \text{夫婦の予定子ども数}) \\
 &+ \text{未婚者割合} \times \text{未婚者のうち結婚を希望する者の割合} \\
 &\times \text{未婚者の希望子ども数} \\
 &\times \text{離死別等の影響} \\
 &= (34\% \times 2.07\text{人} + 66\% \times 89\% \times 2.12\text{人}) \times 0.938 \\
 &= 1.8 \text{ (平成22年(2010年)出生動向調査)}
 \end{aligned}$$

●目指すべき将来の方向

基本姿勢を踏まえ、人口減少傾向の改善を図るため、4つの目指すべき将来の方向を提示します。

①地域で暮らすためのしごとをつくる ～若者が魅力を感じるしごとづくり～

○江田島市内に魅力ある仕事をつくり、市内で働く人を確保することにより、就業世代の定着を図ることを目指します。

②交流人口の増加を図り、江田島市との「縁」を有する人を増やす ～ひとの流れづくり～

- 景観を活かした、来訪者が楽しめる島づくりを目指します。
- 定住者、他出者、縁故者のほか、来訪経験者、江田島市ファンなど、江田島市との「縁」を有する方を増やします。
- 江田島市に「縁」を有する市外在住者の定住を促進します。

③子どもが生まれ、育つ江田島市づくりを進める ～結婚・出産・子育ての環境づくり～

- 結婚を希望する独身者の出会いの場を提供する機会を支援します。
- 子どもを育てやすい、育児・教育の環境を積極的に整えていきます。

④市民満足度が高く、時代に即した「住み続けたいまち」をつくる ～地域づくり～

○江田島市内で安心して暮らせるまちの機能を確保します。

将来展望

江田島市においては、これらの方向性に沿った取組みを進めていくことにより、長期的な推計人口の押し上げを図っていきます。

それに当たり、中期的な人口の数値目標として、第2次江田島市総合計画に掲げた「平成36年度（2024年）の目標人口23,000人」の実現を目指すこととします。

1. 基本的な考え方

●趣旨

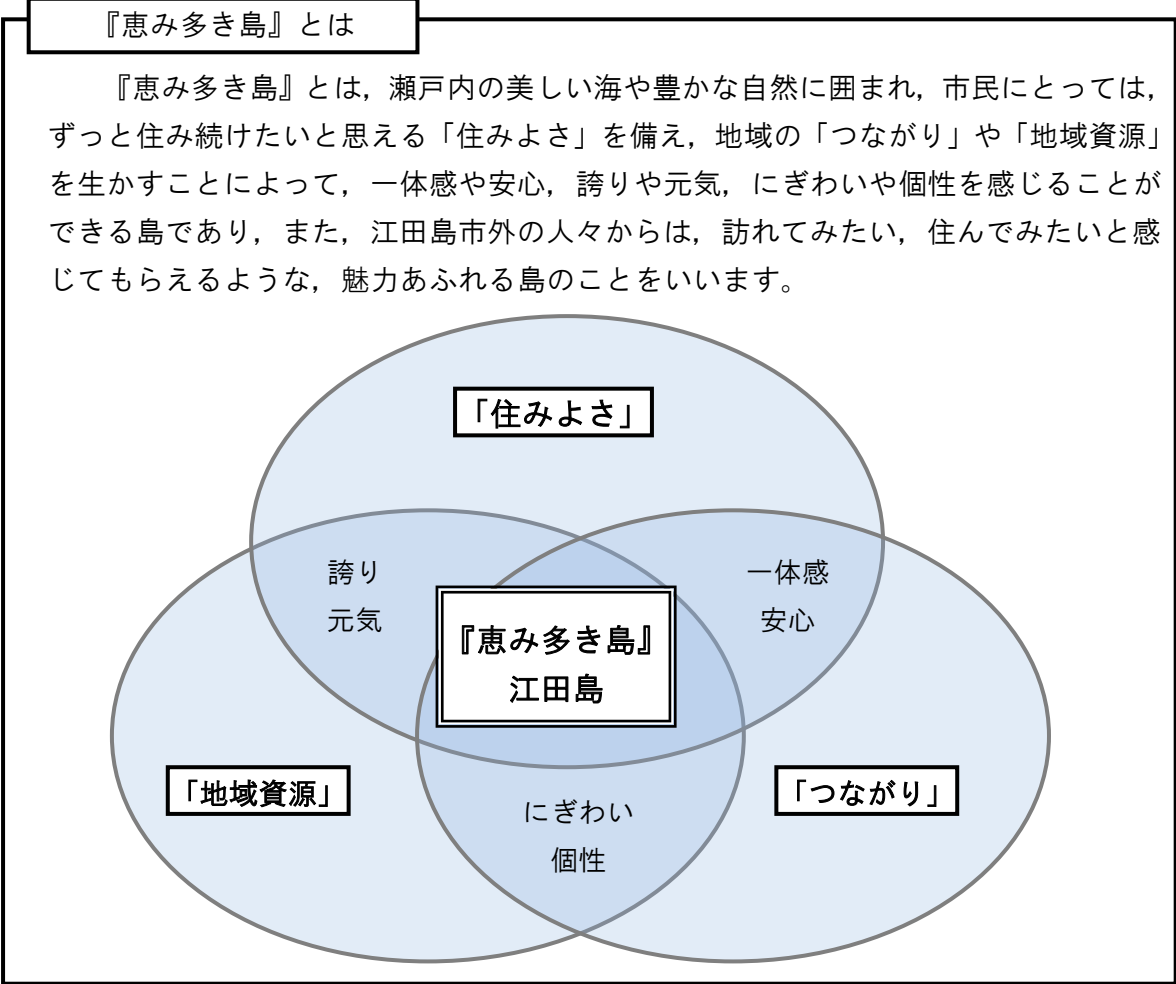
本計画は、江田島市が「市民満足度が高いまちづくり」を行い、「未来を切り開くまちづくり」を達成することで、『恵み多き島』を実現するために、中期的に取り組む施策の基本的方向、具体的な施策についてとりまとめたものです。

●計画期間

平成 27 年度から令和 2 年度までの 6 年間とします。

●基本理念

協働と交流で創りだす『恵み多き島』えたじま



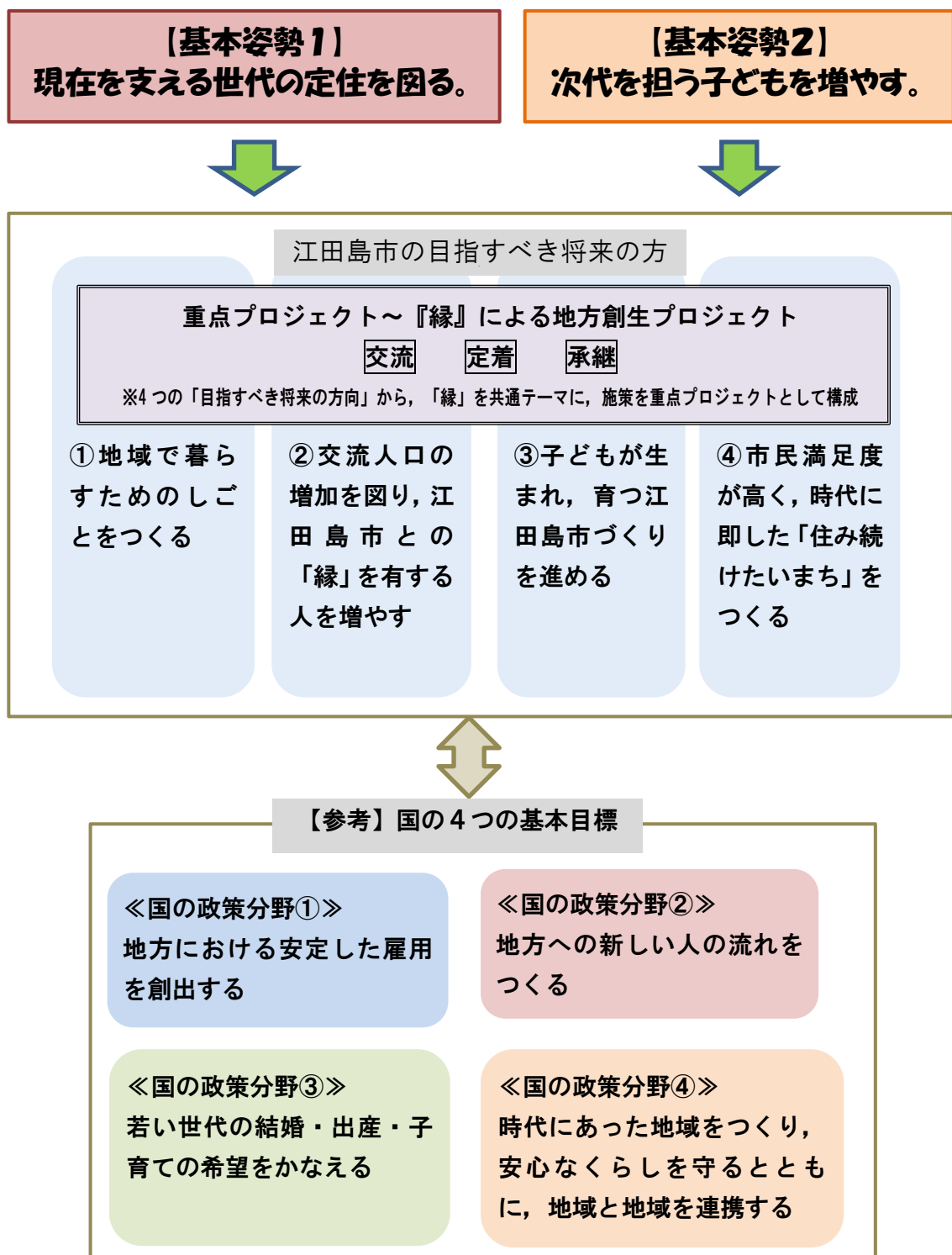
●計画人口

人口ビジョンにおける人口の将来展望を踏まえ、総合計画との整合性に配慮する観点から、令和 2 年度の目標人口を 24,000 人とします。

2. 今後の施策の方向性

●基本姿勢等

基本理念や計画人口の実現を図るための具体的な施策は、江田島市人口ビジョンに示す「基本姿勢」及び「目指すべき将来の方向」を踏まえ、重点プロジェクトを掲げつつ展開していくこととします。



●重点プロジェクト

江田島市総合戦略では、「縁」をキーワードとした取り組みを重点プロジェクトとして設定します。

江田島市「縁」による地方創生プロジェクト

交流促進による縁づくり

◆観光・交流 ～人や自然など、市の魅力に親しんでもらい、江田島市に「縁」を持つファンを増やす

- ・体験型修学旅行の受入
- ・体験型スポーツイベントの実施
- ・地域おこし協力隊の活用
- ・観光受入体制の整備
- ・県外・市外在住の市出身者などの江田島市のファンとの交流促進
- ・公共交通網の再構築

◆PR・セールス ～市の魅力を戦略的にセールスする

- ・交流促進に係るセールス戦略の構築
- ・セールス戦略に連動した魅力の発信力強化

縁のある人の定着促進

◆仕事 ～「縁」のある人が島で暮らすための仕事の創出や承継等を図る

- ・漁業や農業の後継者確保、商業等の事業承継による後継者づくり支援
- ・起業、新分野進出など新たな産業・小さな産業づくり支援
- ・仕事と求職者のマッチング強化
- ・統計データ等の整理・オープン化検討（オープンデータ化）

◆定住促進 ～「縁」のある人の江田島市内への定着を図る

- ・移住希望者への支援
- ・海上自衛隊に対する定住PR

◆地域への愛着の醸成 ～「縁」を深め地域との絆を強める

- ・人口ビジョン等の周知による、市の現状認識の共有化
- ・教育や生涯学習などにおける、愛着を高める「ふるさと教育」の実施

次代への縁の承継

◆結婚・出産 ～「縁」を紡ぐ承継者の誕生を促進する

- ・未婚者の出会いの場の創出支援
- ・子育て経費負担の軽減（医療費・保育料等）

◆子育て

- ・子育て支援センターなどによる子育て支援サービスの充実

◆教育

- ・自然体験など特色のある教育の推進
- ・江田島市内唯一の高校の活性化支援による教育環境の確保

3. 総合戦略の具体的施策（KPI） ※目標値（R2）内の「延べ」は計画期間（6年間）の合計値

①地域で暮らすためのしごとをつくる

【基本目標】

江田島市生まれの若者や移住希望者の居住地などとして選択されるため、例え小規模であっても地域で暮らすための「仕事」づくりを推進します。

目標指標	基準値(H26)	目標値(R2)
創業・起業の年間件数（件）	3	12
農・水産業の後継者・担い手の育成（人）	延べ 2	延べ 11

具体的施策	指標名	重要業績評価指標（KPI）	
		現状値（H26）	目標値（R2）
①農林業の振興	有害鳥獣による農作物年間被害額（千円）	22,585	20,000
	農業の後継者・担い手の育成（人）	延べ 2	延べ 8
	オリーブ栽培の面積（ha）	22.6	35.0
②水産業の振興	鮮度の高いかきの生産・出荷体制の構築（%）	0	100
	水産業の後継者・担い手の育成（人）	0	延べ 3
③商工業の振興	企業立地奨励制度の申請者数（人）	1	延べ 5
	商工業等振興資金補助金の年間申請件数（件）	29	39
	就職相談会の年間来場者数（人）	30	57
	無料職業紹介所相談件数（件）	-	540

②交流人口の増加を図り、江田島市との「縁」を有する人を増やす

【基本目標】

来訪経験者などの増加を図り、江田島市に「縁」を有する人を増やすとともに、移住・定住を支援する体制の構築を図り、安心して暮らし続けることができる生活環境の整備を行います。

目標指標	基準値(H26)	目標値(R2)
年間総観光客数（万人） ※市内外からの観光客の総数	54	69
定住促進策を利用した移住者数（人）	延べ 229	延べ 379

具体的施策	指標名	重要業績評価指標（KPI）	
		現状値（H26）	目標値（R2）
①観光の振興	体験メニュー数（プログラム）	6	15
②都市基盤の整備	市道の整備延長（m）※市道総延長 281km	単年 218	延べ 1,037
	橋梁の長寿命化更新数（橋）※橋梁総数 252 橋	単年 2	延べ 27
③都市との交流・定住の促進	体験型修学旅行等の受入人数（人）	単年 1,719	延べ 18,000

③子どもが生まれ、育つ江田島市づくりを進める

【基本目標】

江田島市の教育や子育てなどの環境づくりを総合的に進めることにより、次代を担う世代の確保を図ります。

目標指標	基準値(H26)	目標値(R2)
合計特殊出生率	H24 数値 1.47	現状より上昇
市民満足度調査の子育て支援サービスの充実の満足度 (%)	55.5	60.0

具体的施策	指標名	重要業績評価指標 (KPI)	
		現状値 (H26)	目標値 (R2)
①学校教育の充実	広島県「基礎・基本」定着状況調査平均通過率3ポイント以上の教科の割合 (%)	57.1	85.7
	ふるさとへの愛着を実感した意識調査(中学校2年生)の割合 (%)	80.7	85.0
	大柿高校の定員充足率 (%)	54.2	66.7
②子育て環境の充実	就学前児童(3~5歳)に対する保育施設入園率 (%) (4月1日現在)	86.2	99.0
	就学前児童(0~2歳)に対する保育施設入園率 (%) (4月1日現在)	26.7	35.0

④市民満足度が高く、時代に即した「住み続けたいまち」をつくる

【基本目標】

これまで暮らしてきた方や新たに移住してきた方が、「住み続けたいまち」と実感できる市民満足度が高いまちをつくるため、安心・快適に暮らせる地域の機能の充実を図ります。

目標指標	基準値(H26)	目標値(R2)
市民満足度調査の全項目平均割合 (%)	54.6	60.0
市民アンケート調査による江田島市への愛着があると答えた割合 (%)	H25 調査 62.5	70.0

具体的施策	指標名	重要業績評価指標 (KPI)	
		現状値 (H26)	目標値 (R2)
①生涯学習の充実	公民館類似施設の年間利用回数 (人/回)	3.29	3.6
	図書館の利用登録者数人口比率 (%)	46	50
②スポーツの振興	社会体育施設の年間利用回数 (人/回)	3.53	3.8
	スポーツ少年団(小学生)の加入比率 (%)	24	26
③保健・医療の充実	がん検診受診率 (%)	胃 10.9	胃 16.0
		肺 18.7	肺 24.0
		大腸 22.0	大腸 24.0
		子宮頸がん 28.5	子宮頸がん 25.0
		乳がん 28.2	乳がん 30.0

具体的施策	指標名	重要業績評価指標 (KPI)	
		現状値 (H26)	目標値 (R2)
③保健・医療の充実(続き)	メタボリックシンドローム該当者及び予備群該当者の割合 (%)	30.6	27.0
	3歳6か月児の虫歯の有病率 (%)	26.6	20.0
④高齢者福祉・介護の充実	居宅サービスの年間受給者数 (人)	10,659	12,790
	シルバー人材センターの会員数 (人)	199	230
	住民主体の介護予防教室数 (教室)	0	75
⑤障害者福祉の充実	障害者等の年間相談支援者数 (人)	(障害者) 193 (障害児) 24	(障害者) 300 (障害児) 40
	障害者就労施設等の市からの年間物品等調達件数 (件)	1	5
⑥社会福祉の充実	高齢者等に対する見守り支援活動地区 (地区)	12	17
⑦公衆衛生の確保	ゴミの総排出量 (t)	10,098	8,513
	ゴミのリサイクル率 (%)	6.8	7.7
⑧自然環境の保全	海ゴミの年間清掃活動 (件)	13	90
	合併浄化槽の設置台数 (台)	780	975
⑨大規模災害時の危機管理	地域防災リーダーの育成 (人)	50	246
	防災資機材の整備団体 (団体)	2	20
⑩総合的な消防体制の充実・強化	予防救急の普及啓発活動 (件)	0	延べ 225
	人口1万人あたりの高齢者に関する年間出火率 (件)	5.93	5.00
⑪暮らしの安全確保	特殊詐欺被害額 (千円)	120,000	6,000
	消費者被害防止等の年間啓発活動 (回)	5	8
⑫都市基盤の整備	法定外公共物(河川・水路)の改修補助件数(件)	単年 15	延べ 75
⑬生活基盤の整備	市営住宅の改修戸数 (戸)	単年 10	延べ 42
	インターネットの加入率 (%)	35.7	44.6
⑭生活交通の確保	航路利用者の前年比減少率 (%)	△4.2	△3.5
	路線バスの年間利用者数 (万人)	70	70
⑮コミュニティの振興	まちづくり協議会の設置数 (協議会)	8	20
	地域提案型活動支援補助金の申請数 (件)	単年 3	延べ 39

4. 計画の推進方法

●PDCAサイクル

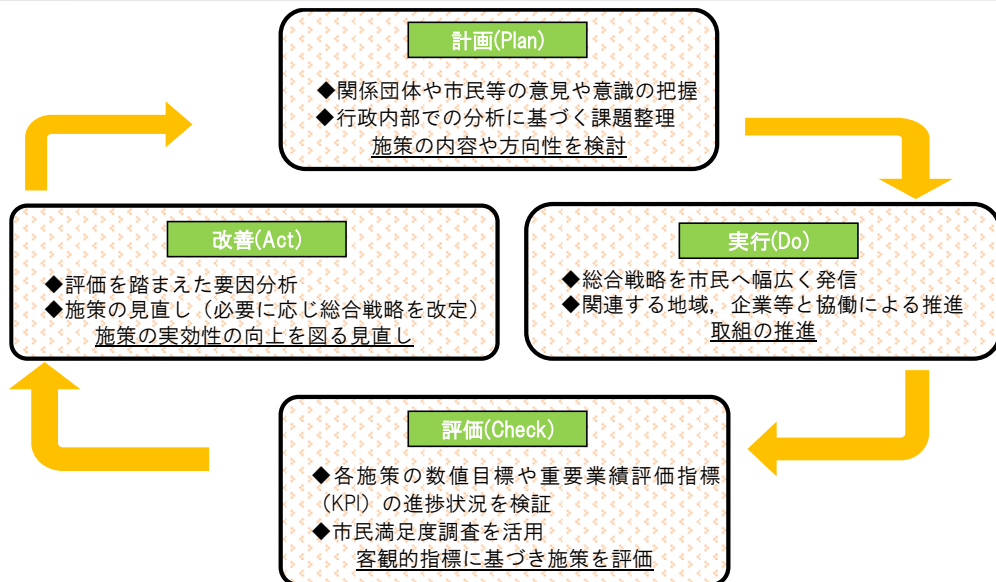
施策分野の目標指標や重要業績評価指標（KPI）については、実施した事業量ではなく、取組の成果を測定する指標とすることを原則とし、目標を明確化することで、市全体での目標の共有化と成果を重視した取組の展開を図ります。

なお、PDCAサイクルの検証に当たっては、「江田島市まち・ひと・しごと創生本部」や「江田島市まち・ひと・しごと有識者会議」といった市役所の内部・外部組織による情報共有や意見交換などにより、より客観的な検証を図っていきます。

また、検証を受け、必要に応じて、江田島市総合戦略の修正を図っていきます。

【江田島市総合戦略に関わるPDCAサイクルの基本的な考え方】

施策分野の目標指標，重要業績評価指標（KPI），市民満足度調査等に基づく効果検証



●広域連携の推進

個人の生活圏域の広がりにより、こうした方への行政サービスなど、複数の自治体が連携した方が、取組がより効率的で、効果を発揮すると考えられる場合があるため、江田島市総合戦略の推進においては、必要に応じ、どの「連携中枢都市圏制度」や「広島広域都市圏協議会」「呉地方拠点都市地域推進協議会」「広島市との海生交流協定」などの複数自治体との広域連携の枠組みを活用し、施策効果を高めつつ取り組みを進めていきます。

